

令和2年8月24日

Vol.3

中津高職員が届ける

卒業生からのメッセージ

今回お届けするのは、数学科塚田先生です。現在、株式会社大垣ケーブルテレビでアナウンサーとして活躍中の伊佐治好音さんからのメッセージを紹介します。

入学した時からアナウンサーになることを意識して高校生活を送っていたような気がします。しぐさの端々にそのことを感じました。とっても努力家でした。でも一時期体調を崩しものすごく苦労しました。それでも決して努力を怠ることはありませんでした。僕が3年生で担任をしていた時、名古屋市立大学の説明会に行きました。それまであまりこの大学について知らなかったのですが、説明を聞きその場で、よし、この子をこの大学に推薦しようと思い実際そうしました。彼女は期待に応えてくれ、見事合格し、そして現在があるわけです。



数学科 塚田一隆先生

①どんな高校時代（勉強・部活）

勉強と部活動を両立させることに必死でした。

中津高校は小テストと家庭学習の課題が多かったので、課題をこなしながら部活に必死に打ち込む日々でした。私は帰宅すると疲れてすぐに寝てしまっていたので、勉強は朝早く起きて取り組んでいました。そうすると1日の目覚めが良く、その後の学校の時間もすっきりとした頭で授業に取り組んでいました。

②今の仕事についての経緯

『アナウンサー』を目指していました。

中学生の頃に放送部で、先生や友達から「聞きやすい声だね！」と褒められたことがきっかけで、情報を伝える『アナウンサー』という仕事に興味をもちました。それから、『アナウンサー』になることを目標に、大学ではアナウンサースクールにも通っていました。

就職活動では全国の放送局を受け、100社以上に履歴書を送ったと思います。その中にご縁があったのが今務めている会社でした。

③今の仕事について

やりがいを日々感じています。

ケーブルテレビでは、取材、カメラ、編集、アナウンスなど放送に関わる仕事を1人で担います。幅広く仕事の知識を得られますが、仕事内容が多岐にわたるため、これまでたくさんの失敗をしてきました。失敗をする度に「自分には向いてない」と思い、何度も悔し涙を流してきました。ですが、制作した番組が放送された後に、視聴者から「放送よかったよ!」、「応援しているよ!」といった声をいただくことが多々あります。そういった視聴者の声を聞くとやりがいを感じますし、「次回の取材も頑張ろう!」といった気持ちになります。

働いている時間の中で、『アナウンサー』の仕事よりもカメラで撮影したり編集をしたりなど『番組制作』をする時間の方が圧倒的に長いです。当初は『アナウンサー』の仕事に執着していましたが、今は自分が制作した番組が視聴者にとって一生の宝の映像になることを知り、仕事に誇りを持って毎日励んでいます。

④高校生へのメッセージ

今の時間を大切に、そして存分に楽しんで下さい。

今は毎日、小テストや家庭学習の課題、部活動などに追われる日々だと思います。「辛いな」、「手を抜きたいな」と思う時もあるかもしれませんが、今高校時代を振り返ると「あの時頑張ってよかったなあ」と思います。隙間時間を有効に使うなどちょっとした努力の積み重ねが、後々大きな結果に繋がると思います。

そして、文化祭や体育祭など、はじけるところは全力ではじけて、楽しい思い出を作ってください。私は高校時代にとっても素敵な友人たちに出会いました。今でも地元に戻ると必ずその友人たちに会いますし、一生の宝だと思っています。

一生に一度の高校時代、毎日を大切にそして楽しんで過ごして下さい。

